

5. 精神・行動障害

文献

保坂政嘉, 若山育郎. うつ病についてのシステマティックレビュー うつ病に対して鍼治療が有効であるというエビデンスはあるか. *関西医療大学紀要* 2011; 5: 17-24. 医中誌 Web ID: 2012027077

1. 目的

2005年報告の先行研究では鍼治療の有効性が示されなかったため、それ以後に発表された論文を含めてうつ病に対する鍼治療の有効性を評価。

2. 研究デザイン

メタアナリシス (Meta-Analysis)

3. データソース

Medline (2003年6月～2010年3月)、検索語 (acupuncture or electroacupuncture or laser acupuncture、depression or depressive state or mental disorder or dysthymia)でRCTを抽出。

4. 研究の選択

除外基準は1) RCTsではない、2)対象疾患がうつ病と特定できない、3)鍼治療でない、4)同じ臨床試験を部分的に報告している、5)同じ内容を英語以外の言語で書いたもの、6)既発表論文の総説、7)記載内容が不明瞭で構造化抄録が作成できないもの。

84論文の候補から10論文(中国7論文、欧米3論文)を選択。

5. データ抽出・統合

各RCT論文から症例数、鍼治療頻度、主要アウトカム、主要アウトカムの統計学的結果、評価期間等を抽出。

6. 主要アウトカム・測定尺度

主要アウトカムにはHamilton Rating Scale for Depression (HRSD)を選択。各論文の評価には修正Jadad score、STRICTA score、独自の評価項目を用いた。

7. 主な結果

EAと抗うつ剤との治療効果を比較したRCT、4論文のメタアナリシスを実施。統計学的には同質であったが、概念的異質性を示した。効果量であるstandardized mean difference(SMD)は-2.04(95%信頼区間-3.34～-0.74)であった。RCT論文の質を評価する修正版Jadad scoreは5点が1編、3点が1編、1点が2編であった。

8. 結論・意義

EA治療あるいはEA治療と抗うつ剤の併用は抗うつ剤単独治療と比較して有意にうつ病を改善した。また先行研究と比較して論文の質がわずかながら向上した。

9. 鍼灸医学的言及

なし。

10. 論文中の安全性評価

有害事象について記載されていたのは6論文。

11. Abstractor のコメント

本邦における鍼灸領域のメタアナリシス論文は大変稀少である。本研究はその中でも有効性のエビデンスが示されていないうつ病に対する鍼治療のメタアナリシスを実施しており、また、統合されたRCT論文の質や異質性の問題などから限られた結果ではあるが、抗うつ剤単独治療と比較して鍼治療の有効性を示唆する結果が得られたことは非常に価値あることである。また論文の質についてもいくつかのツールを用い、多面的に評価している点においても高く評価される。しかしながら、Jadad scoreはその妥当性が疑問視されているため、今後はコクランレビューで用いられているツールを用い、さらなる追試及び他のテーマでのメタアナリシスが実施されることを期待する。

12. Abstractor and date

大川祐世 2016.12.8